



2018年5月6日 (第184号)
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074 高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484
Email
教区: catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報: tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成: yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

カトリック高松教区報

マザー・テレサの言葉
神さまの慈悲の生きた印でありなさい。
あなたがたの面差しに浮かぶ慈愛、まなざしに滲えらるる慈愛、ほほえみに漂う慈愛、あなたがたの心からなる、あいさつに込められた慈愛

『社会と共に歩む教会を目指してー協力宣教』

諏訪榮治郎司教が二〇一八年度司教書簡を発表

『社会と共に歩む教会をめざしてー協力宣教』と題し諏訪榮治郎司教は3月5日付で二〇一八年度高松教区司教書簡を発表した。この中で司教は、近隣小教区が交わり強められ共に働く『協力宣教』の推進を、新しい時代への教区ビジョンとして強く信徒に訴えている。



諏訪榮治郎司教

次なるステップへ

書簡は4項目に分けられ、最初に『福音マーケット』の次なるステップへ向けて」として、まずこれまでの福音宣教への教会の取り組みの経緯が述べられる。

『協力宣教』を教区ビジョンに

宣教へすべての信徒が共働

第一回のNICCEから二〇一二年の『信仰年』まで様々な課題に対応してきた。その中で『充実した喜びの信仰年を経験した反面、福音と現実社会の繋がりをどう見出すのか分からないという課題に到達。その結果、社会が必要としているニーズと教会が持つ豊かさとの関連を探り福音宣教に繋げる姿勢を探る福音マーケットが実施された」と述べる。

一方、『社会のニード』は青年にとっては自由、余裕(時間)、仲間、給与などがあり、高齢者にとっては家庭問題、人間関係、病氣、介護など様々な側面が浮き彫りになった。社会に生きる教会としてどのように豊かさを提供できるかが問われている。

『自分の信仰に誇りを持つ』と「神と人とをつなぐ私にはパイプ役」などがあげられた後、地域への福音宣教は『何を』と

「高松教区を考えると、3項目目は『高松教区の将来を考える会』について。2017年3月に発足した『考える会』は、養成と福音マーケット部門、小教区訪問で教区財政の『大変厳しい』状況を報告。大阪教区管区は2016年から3年間、高松教区への『財政支援プロジェクト』を実施、本部事務局職員の間年人件費約1000万円の半額500万円を支援。高松教区では財政改善のため3年間の教区献金をお願いした。

その取り組みの中で『社会の中に福音の種の芽生えがある。その人々どう連携していくか』『自己の福音化が宣教の基礎』などの方向性が出された。

『自己の福音化が宣教の基礎』などの方向性が出された。まず歴史からの考察として、キリストの存在、神の不在の中で250年間もキリスト者は真に平等でそれを固有の立場と任務に就いてキリストの体

最後に司教は深刻な現代社会の問題に取り組むためにも「すべてのキリスト者が福音宣教に向けて協力し、奉仕し合い、活かし合うことが教会の本来の姿です。(地区ブロック小教区チームなど)宣教司牧評議会は大切な福音宣教の場です。神のみ旨を識別する場であり、養成の場であり、信仰のチャレンジ(挑戦)の場でもあるのです」と述べ、宣教司牧評議会がキリストの愛が働いてくださる場となるよう豊かさを大切にするよう訴えています。

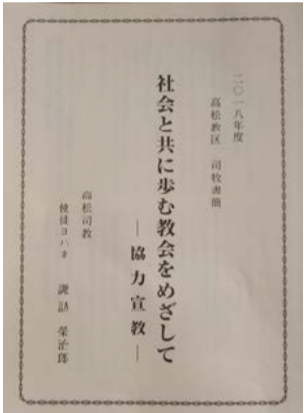
高松神父さま、司教叙階おめでとうございます。二人の助祭も認定され、教区にとって喜ばしいことが続いています。三月に教皇さまは全教会の典札曆に「聖なるおとめマリア教会の母」記念日を聖霊降臨後の月曜日と定められました。十字架上でイエスは弟子にマリアを母として委ね、弟子達をマリアに子どもとして委ねました(ヨハネ19:27)。



「福音マーケット」のエクササイズに取り組む女性の会員

最後に司教は深刻な現代社会の問題に取り組むためにも「すべてのキリスト者が福音宣教に向けて協力し、奉仕し合い、活かし合うことが教会の本来の姿です。(地区ブロック小教区チームなど)宣教司牧評議会は大切な福音宣教の場です。神のみ旨を識別する場であり、養成の場であり、信仰のチャレンジ(挑戦)の場でもあるのです」と述べ、宣教司牧評議会がキリストの愛が働いてくださる場となるよう豊かさを大切にするよう訴えています。

高松神父さま、司教叙階おめでとうございます。二人の助祭も認定され、教区にとって喜ばしいことが続いています。三月に教皇さまは全教会の典札曆に「聖なるおとめマリア教会の母」記念日を聖霊降臨後の月曜日と定められました。十字架上でイエスは弟子にマリアを母として委ね、弟子達をマリアに子どもとして委ねました(ヨハネ19:27)。



『社会と共に歩む教会をめざしてー協力宣教』

『自己の福音化が宣教の基礎』などの方向性が出された。まず歴史からの考察として、キリストの存在、神の不在の中で250年間もキリスト者は真に平等でそれを固有の立場と任務に就いてキリストの体

最後に司教は深刻な現代社会の問題に取り組むためにも「すべてのキリスト者が福音宣教に向けて協力し、奉仕し合い、活かし合うことが教会の本来の姿です。(地区ブロック小教区チームなど)宣教司牧評議会は大切な福音宣教の場です。神のみ旨を識別する場であり、養成の場であり、信仰のチャレンジ(挑戦)の場でもあるのです」と述べ、宣教司牧評議会がキリストの愛が働いてくださる場となるよう豊かさを大切にするよう訴えています。

最後に司教は深刻な現代社会の問題に取り組むためにも「すべてのキリスト者が福音宣教に向けて協力し、奉仕し合い、活かし合うことが教会の本来の姿です。(地区ブロック小教区チームなど)宣教司牧評議会は大切な福音宣教の場です。神のみ旨を識別する場であり、養成の場であり、信仰のチャレンジ(挑戦)の場でもあるのです」と述べ、宣教司牧評議会がキリストの愛が働いてくださる場となるよう豊かさを大切にするよう訴えています。

最後に司教は深刻な現代社会の問題に取り組むためにも「すべてのキリスト者が福音宣教に向けて協力し、奉仕し合い、活かし合うことが教会の本来の姿です。(地区ブロック小教区チームなど)宣教司牧評議会は大切な福音宣教の場です。神のみ旨を識別する場であり、養成の場であり、信仰のチャレンジ(挑戦)の場でもあるのです」と述べ、宣教司牧評議会がキリストの愛が働いてくださる場となるよう豊かさを大切にするよう訴えています。

最後に司教は深刻な現代社会の問題に取り組むためにも「すべてのキリスト者が福音宣教に向けて協力し、奉仕し合い、活かし合うことが教会の本来の姿です。(地区ブロック小教区チームなど)宣教司牧評議会は大切な福音宣教の場です。神のみ旨を識別する場であり、養成の場であり、信仰のチャレンジ(挑戦)の場でもあるのです」と述べ、宣教司牧評議会がキリストの愛が働いてくださる場となるよう豊かさを大切にするよう訴えています。

『社会と共に歩む教会をめざしてー協力宣教』と題し諏訪榮治郎司教は3月5日付で二〇一八年度高松教区司教書簡を発表した。この中で司教は、近隣小教区が交わり強められ共に働く『協力宣教』の推進を、新しい時代への教区ビジョンとして強く信徒に訴えている。

『自分の信仰に誇りを持つ』と「神と人とをつなぐ私にはパイプ役」などがあげられた後、地域への福音宣教は『何を』と

「高松教区を考えると、3項目目は『高松教区の将来を考える会』について。2017年3月に発足した『考える会』は、養成と福音マーケット部門、小教区訪問で教区財政の『大変厳しい』状況を報告。大阪教区管区は2016年から3年間、高松教区への『財政支援プロジェクト』を実施、本部事務局職員の間年人件費約1000万円の半額500万円を支援。高松教区では財政改善のため3年間の教区献金をお願いした。

その取り組みの中で『社会の中に福音の種の芽生えがある。その人々どう連携していくか』『自己の福音化が宣教の基礎』などの方向性が出された。

最後に司教は深刻な現代社会の問題に取り組むためにも「すべてのキリスト者が福音宣教に向けて協力し、奉仕し合い、活かし合うことが教会の本来の姿です。(地区ブロック小教区チームなど)宣教司牧評議会は大切な福音宣教の場です。神のみ旨を識別する場であり、養成の場であり、信仰のチャレンジ(挑戦)の場でもあるのです」と述べ、宣教司牧評議会がキリストの愛が働いてくださる場となるよう豊かさを大切にするよう訴えています。

最後に司教は深刻な現代社会の問題に取り組むためにも「すべてのキリスト者が福音宣教に向けて協力し、奉仕し合い、活かし合うことが教会の本来の姿です。(地区ブロック小教区チームなど)宣教司牧評議会は大切な福音宣教の場です。神のみ旨を識別する場であり、養成の場であり、信仰のチャレンジ(挑戦)の場でもあるのです」と述べ、宣教司牧評議会がキリストの愛が働いてくださる場となるよう豊かさを大切にするよう訴えています。

最後に司教は深刻な現代社会の問題に取り組むためにも「すべてのキリスト者が福音宣教に向けて協力し、奉仕し合い、活かし合うことが教会の本来の姿です。(地区ブロック小教区チームなど)宣教司牧評議会は大切な福音宣教の場です。神のみ旨を識別する場であり、養成の場であり、信仰のチャレンジ(挑戦)の場でもあるのです」と述べ、宣教司牧評議会がキリストの愛が働いてくださる場となるよう豊かさを大切にするよう訴えています。

最後に司教は深刻な現代社会の問題に取り組むためにも「すべてのキリスト者が福音宣教に向けて協力し、奉仕し合い、活かし合うことが教会の本来の姿です。(地区ブロック小教区チームなど)宣教司牧評議会は大切な福音宣教の場です。神のみ旨を識別する場であり、養成の場であり、信仰のチャレンジ(挑戦)の場でもあるのです」と述べ、宣教司牧評議会がキリストの愛が働いてくださる場となるよう豊かさを大切にするよう訴えています。

最後に司教は深刻な現代社会の問題に取り組むためにも「すべてのキリスト者が福音宣教に向けて協力し、奉仕し合い、活かし合うことが教会の本来の姿です。(地区ブロック小教区チームなど)宣教司牧評議会は大切な福音宣教の場です。神のみ旨を識別する場であり、養成の場であり、信仰のチャレンジ(挑戦)の場でもあるのです」と述べ、宣教司牧評議会がキリストの愛が働いてくださる場となるよう豊かさを大切にするよう訴えています。

アシジのフランシスコ高山神父 叙階おめでとぅございます

3月21日、高松教区司教座聖堂桜町教会において、アシジのフランシスコ高山^{あきぎ}徹神父の叙階式が行われました。諏訪司教司式による厳肅な叙階式ミサには、教区内外から450人を超える参列者が集いました。
ミサ後には、四国カトリック会館において祝賀パーティーが行われ、多くの参加者で盛り上がりました。



奉献文



司祭服の着衣



訓話



訓話



受階者の約束



パンとブドウ酒の授与



按手



奉献文



司祭叙階の祈り



諸聖人の連願



諏訪司教挨拶



聖香油の塗油



歓迎の言葉



新司祭挨拶



栄唱



御両親を祝福



受階者の約束



歓迎の抱擁



霊的花束贈呈



叙階式後、司祭団・御両親・侍者と



新司祭挨拶



花束贈呈

祝賀会にて 喜びの顔・顔・顔



司祭叙階の恵みを頂いて

新司祭 高山 徹

お蔭様で3月21日、司祭叙階の恵みを頂きました。沢山の祈り、様々な準備、当日のご参列等、頂いた全てに感謝申し上げます。本当にありがとうございました！

昨年の助祭叙階がヨセフ神父様の司祭叙階との「ダブル叙階」であったのに対し、今回は単独叙階でありました。それ故の違いは、正直なところ、私にとって色々な面でごさいました。そのなかで四国内の皆様、特に地元高松の皆様が色々な準備と、励まし、また遠方の友人も教えきれないエールを下さり、何とか当日を迎えることが出来ました。

当日は、少しお天気が悪い状況でしたが、皆様の祈りが通じまして次第に雨もやみました。全参列者の聖堂内での参列が一時あやぶまれ、各地からお越しのお客様も心配しましたが、立見席もありながら多くの方に聖堂内で与って頂くことができました。その空間は、言葉に言い尽くせぬ雰囲気でありました。四国内の信徒の方は勿論、今まで私と色々な時期に関わって下さった方々が参列下さったからです。中学の担任の先生、大学の先生、元職場の事務長さん、青春時代の友達、故郷である三重の教会の神父さん、



信者さん、九州や東京の司牧実習先の皆さん、神学校の関係者等・・・。

祝賀会でも、全く同じ雰囲気でした。何より、ずっと見守る両親と叔母の姿がありました。

土台無理と知りつつ、皆様と握手(抱擁?)でご挨拶したい気持ちでした。式後のご挨拶でも申し上げましたが、泥だらけになるような失敗をすることのある私が何層も立ち上がる事が出来たのは、こうした出会いと支えのお蔭なのです。いつも、転ばぬ先の杖ではなく、一旦は自分で考えて行動する機会を頂きながら、必ず助けて頂いて参りました。これからの司祭生活はこれまでと異なり、色々な所で責務が生じて参ります。変わらず弱い自分の姿もあります。それでも、神様から今まで無償で頂いたとんでもなく大きな恵みに感謝し、また信頼して参りたいと思います。

初ミサは、参列下さった方には申し訳ないくらい、ガチガチに緊張しておりました。自分がキリストの名において聖別の言葉を述べる不思議も恐れ多く感じしておりますが、回を重ねるごとにその喜びも同時にかみしめております。「神父さん!」と呼ばれるのにも、少しずつ慣れながら。外国語ミサの司式も喜んで捧げようと思っております。これからも、何卒宜しくお願い申し上げます!

追伸 後輩を大募集中です!

東日本大震災復興7年現地活動報告会(TSC)

2018年6月10日 (日) 10:00~15:30 桜町司教座聖堂



主催

高松サポートセンター(TSC)
谷口広海 助祭
(070-5515-6810)
後援 大阪教区管区プロジェクト
*当日の献金は、大阪教区管区へ

第1部 10:00 ミサ
諏訪榮治郎司教叙階7周年
感謝と復興祈願
(子供と共に捧げるミサ)
第2部 11:15
被災地現地活動報告
(1)カリタスジャパン
大船渡ベース長 菅原圭一氏
(2)カリタスジャパン
南三陸ベース長 千葉道生氏
昼食 12:30~13:15
各自お弁当持参ください。
第3部 13:20~15:20
チャリティーコンサート
(鎮魂 復興祈願)

募集要項
・コーラスグループを募集
(教会・修道会・一般から)
・意向に沿った曲目2曲
(10分以内)
・参加申込期日:5月25日まで
・申込先:桜町教会
(FAX/087-831-6629)
窓口:中越恵美
必要事項
・グループ名・曲目・責任者
・連絡先・備考を記載
最後に参加者一同で「花は咲く」
(若井俊二)を歌います。

教区スケジュール

- 5月
 - 3日(木) 憲法記念日 聖フィリポ 聖ヤコブ使徒
 - 4日(金) みどりの日
 - 5日(土) こどもの日
 - 6日(日) 復活節第6主日 世界広報の日
 - 13日(日) 主の昇天 復活節第7週
 - 14日(月) 聖マチア使徒 西日本地区司祭交流会in下関
 - 19日(土) 田中英吉司教追悼ミサ11:00 宣教司牧評議会役員会13:00
 - 20日(日) 聖霊降臨の主日 田中英吉司教命日
 - 26日(土) 聖フィリポ・ネリ司祭
 - 27日(日) 三位一体の主日 (年間第8週)
 - 31日(木) 聖母の訪問
- 6月
 - 3日(日) キリストの聖体
 - 8日(金) イエスのみ心
 - 9日(土) 聖母のみ心
 - 10日(日) 年間第10主日 諏訪司教叙階記念ミサ、東北大船渡・三陸ベース活動報告会&チャリティーコンサート(10:00~15:20)
 - 11日(月) 聖バルナバ使徒
 - 16日(土) 13:30教区の将来を考える会
 - 17日(日) 年間第11主日
 - 19日(火) 広島・高松教区司祭・助祭黙想会in大分 (~23日)
 - 24日(日) 洗礼者聖ヨハネの誕生 (年間第12週) 聖ペトロ使徒超額献金
 - 29日(金) 聖ペトロと聖パウロ使徒

信仰の喜び

昨年12月25日、昨夜の雨もこの日を祝福するよう晴れ渡り日輪がさんさんと輝く主の降誕の日。栄光の恵みと愛のあふれる記念する日に洗礼と堅信・聖体の秘跡を授かり、洗礼名使徒ヤコブを授与され非常な喜びと光栄で全てのめぐり合わせと兄弟の皆様に感謝します。

洗礼のめぐみ深く...

初めての聖体拝領頂き感激感謝しております。私の人生は無宗教で宇宙の太陽を心の支えにして生きてまいりました。平成22年9月に妻が天国に召され、宗教法人真言宗(高野山)にお世話になり墓を大阪市摂津市に建立致し真言宗を崇拝いたしておりました。老後は道後という事で大阪から松山市に転居しました。

今は『受洗までの74年間に過信することなく神の胸に心を向け、他人への思いやりと愛を持ってお互いを支えなさい』という神父さんの説教を聞きながら熱く燃える気持ちになりました。教会におかれては信徒の減少や高齢化対策の一環に何人でもいつでも教会の門を地域の人々に開

218日を自分勝手に歩んできた人生を強く反省し、悔い改めてこれから神の教えに従って教会と共に新しい考えで人生を歩むことを望んで生きていきたいと思います。(道後教会)

高松教区は「福音マーケット」を通じ、教会の宝ともいふべき『福音の豊かさ』への気付きからくる、自らの信仰の喜びを社会に繋げていくという課題に取り組んでいます。

前号から掲載していましたが本コーナーへの皆様の投稿をお待ちしています。編集部

高松教区は「福音マーケット」を通じ、教会の宝ともいふべき『福音の豊かさ』への気付きからくる、自らの信仰の喜びを社会に繋げていくという課題に取り組んでいます。

高松教区は「福音マーケット」を通じ、教会の宝ともいふべき『福音の豊かさ』への気付きからくる、自らの信仰の喜びを社会に繋げていくという課題に取り組んでいます。

高松教区は「福音マーケット」を通じ、教会の宝ともいふべき『福音の豊かさ』への気付きからくる、自らの信仰の喜びを社会に繋げていくという課題に取り組んでいます。

高松教区は「福音マーケット」を通じ、教会の宝ともいふべき『福音の豊かさ』への気付きからくる、自らの信仰の喜びを社会に繋げていくという課題に取り組んでいます。

高松教区は「福音マーケット」を通じ、教会の宝ともいふべき『福音の豊かさ』への気付きからくる、自らの信仰の喜びを社会に繋げていくという課題に取り組んでいます。

高松教区は「福音マーケット」を通じ、教会の宝ともいふべき『福音の豊かさ』への気付きからくる、自らの信仰の喜びを社会に繋げていくという課題に取り組んでいます。



前列左から2人目:ロビンソン師、右端:村上師、

これまでの教区司牧に感謝 聖香油ミサで金・銀祝を祝う

3月28日、桜町司教座ミサに四国4県の修道会、宣教会、教区司祭たちが集まった。式の中で「司祭職の模範である主イエスと一致し、自らを捧げ、教会のために自由に引き受けた聖なる任務を果たしますか」などの、司教の問いかけに「はい」と答え、叙階の日の誓いを新たにす約束の更新を行った。式の最後に、司祭叙階50周年と25年を迎えた司祭のお祝い式を行い、式後、場所を司教館に移してお祝い会を催した。



アルベルト・サイス師

1969年6月、スペインノ国マドリド市、聖ペトロ修道院において司祭叙階。スペイン出身。1972年来日。新居浜市愛光幼稚園副園長、上智大学神学系、松山市愛光学園教諭、東京、聖ドミニコ寮寮長、ロザリオ学園、若葉幼稚園副園長、園長、ロザリオ学園、道後聖母幼稚園園長、今治教会主任、道後教会主任、

1964年9月15日アメリカより来日。日本語学習後、上智大学で3年学ぶ。1968年4月4日叙階。高知、江ノ口教会主任、聖母学園、高知大学教授他、学生のアメリカン・フットボール・クラブコーチ、空手顧問・審判、日本空手協会会長、英語活動ディレクターを務める。1983年日本プロライフ運動を創立。受胎の瞬間から、寿命で自然死するまでの命を守る目標に掲げ、中絶や安楽死で命が軽視されている日本全国で、平和教育

高松教区司祭叙階、叙階後司教館付司祭、江ノ口教会、桜町教会、桜町聖母幼稚園副園長、園長歴任後、新居浜教会。2009年鹿児島教区へ派遣、現在に至る。

8幡浜教会担当、ロザリオ学園、八幡浜聖母幼稚園園長、松山市 学校法人愛光学園理事等を歴任。教区小教区で長きにわたって司牧に当たる。

1964年9月15日アメリカより来日。日本語学習後、上智大学で3年学ぶ。1968年4月4日叙階。高知、江ノ口教会主任、聖母学園、高知大学教授他、学生のアメリカン・フットボール・クラブコーチ、空手顧問・審判、日本空手協会会長、英語活動ディレクターを務める。1983年日本プロライフ運動を創立。受胎の瞬間から、寿命で自然死するまでの命を守る目標に掲げ、中絶や安楽死で命が軽視されている日本全国で、平和教育

高松教区司祭叙階、叙階後司教館付司祭、江ノ口教会、桜町教会、桜町聖母幼稚園副園長、園長歴任後、新居浜教会。2009年鹿児島教区へ派遣、現在に至る。



ノボニー・シェロー師

1953年、三重県熊野を通じ、この運動に従事。高松教区では昨年10月、ローマ・グレゴリアン大学入学。1992年6月、同大学卒業。同年10月26日、ラテラノ大聖堂にて助祭叙階。1993年7月4日、高松教区司祭叙階、叙階後司教館付司祭、江ノ口教会、桜町教会、桜町聖母幼稚園副園長、園長歴任後、新居浜教会。2009年鹿児島教区へ派遣、現在に至る。

高松教区は「福音マーケット」を通じ、教会の宝ともいふべき『福音の豊かさ』への気付きからくる、自らの信仰の喜びを社会に繋げていくという課題に取り組んでいます。

高松教区は「福音マーケット」を通じ、教会の宝ともいふべき『福音の豊かさ』への気付きからくる、自らの信仰の喜びを社会に繋げていくという課題に取り組んでいます。

高松教区は「福音マーケット」を通じ、教会の宝ともいふべき『福音の豊かさ』への気付きからくる、自らの信仰の喜びを社会に繋げていくという課題に取り組んでいます。